



♡♡ ピンサロで遭遇した愛娘に

生フェラされながら手マンして

イカせてしまった話

ハメット written by  
Hammett

たまたま訪れたピンサロで我が子を発見！

事情を聞くために娘を指名して再度ピンサロへ……

するとだんだんそういう流れになってしまい——!? 扶

いちゃラブ父娘がフキンシンな  
愛をカラダで確がめ合う！

体験版

## ■ キャラクター紹介



### 香月文梨

こうづきあやり

ピンサロでアルバイトをしている女子大生。

何百人にもフェラをしてきたが処女でキスも未経験。

父親とふたり暮らしで仲がよく、毎週末デートしている。

### 香月甚介

じんすけ

文梨の父。妻とは十年前に死別。

以降は恋人もつくらず仕事と子育てに専念。

風俗にも数えるほどしか行ったことがない。

その夜、たまたま入ったピンサロで、香月甚介は愛する一人娘と遭遇した。

(文梨……!!? どうしてこんなところに……)

どうしてもなにも、文梨がこの店で働いているからに決まっている。

(パパ……!?!? どうしてこんなところに……)

目を丸くしている娘の表情からも、同じ思いが読み取れた。

どうしてもなにも、溜まったものを放出しにきたに決まっているのだが。

いや、ふだんの甚介はこういう店を利用しない人なのだ。

それが、同じ部署の後輩である大竿豪太と居酒屋をはしごしていたら、

「甚さん、抜き行きましよ、抜き! 俺もうパンパンでヤバいんすよ!」

などと繁華街を歩きながら大声で訴え出したので、わかったわかったとなだめつつ、ちやうど通りかかったこの店に人目から逃れるようにして飛び込んだというだけのこと——。

(まあ、せっかく来たからには抜いてく気は満々だったわけだけど……)。

まさかそこで実の娘と出くわすなどとは想像もしていなかったし、想像できるわけがない。

せめてもの救いは、甚介についたのが文梨だったというわけではなく、隣のボックスで股間をふくらませている豪太のもとへやってきたのが彼女だったということだろうか。

とはいえ、これから後輩のペニスを娘がしゃぶるのだと考えると、救いもなにもあったもんじゃない。

ひさびさに誰かにかわいがってもらえるという期待に元気をつけはじめていたムスコも、いまや完全に戦意を喪失して皮の中へと潜り込もうとしている。

「こんばんはあ、リアでえす。よろしくお願いしまあす」

甚介の隣に座ったキャストが、ぴったりと身を寄せてきた。学校の制服を模したペラペラのコスチューム越しにあたたかな体温が伝わってくる。

異性とそんなふうに密着することすら、かなりひさしぶりのことだった。十年前に妻と死別してからは女性との性交渉など風俗店で数えるほどしかしてこなかったし、

本来ならそれだけでもフル勃起させてしまふところなのだが。

（娘の前でしゃぶられるわけにもいかないしなあ……）

狭い通路を挟んだむこうのボックスを見やると、文梨がちらちらと甚介のほうをうかがいながら、豪太に肩を抱かれて愛想笑いを浮かべている。店内の音楽が邪魔をして話す声までは聞き取れなかった。

（さすがに文梨も俺のことが気になってるみたいだな）

彼女だって、父親の前でフェラチオなどしたくはないだろう。

（あつ、あいつ……！）

豪太はミニスカートから伸びた文梨の太腿に手を置いて、無遠慮にむにむにと揉み込んでいる。しかし客からキャストへのタッチは許されている行為なのだ。そればかりか、この店は女の子の膣に指を一本までなら入れてもいいことになっている。

（あいつが文梨に……）

想像したら、頭よりも先に股間が怒り出していた。

「わあ、かったあい」

気づくとリアが甚介のペニスに手を伸ばし、ズボン越しにその感触をたしかめてい

た。

「うおっ、リアちゃんっ……!」

「お兄さん、結構ちんこデカいですよね?　しゃぶり甲斐ありそお」

布ごと勃起を握りしめて、こすこすと軽く擦ってくる。それだけで頬がゆるんでいくのを自覚して、甚介はあわてて顔を引き締めた。

ちらりと文梨のほうへ目をやると、彼女の視線が甚介の下腹部へまっすぐ注がれているのが見て取れた。

(まずい、勃ってるの见られてる……)

少しでも娘の目からブツを隠すために腰をよじろうとしたら、リアが股間に覆いかぶさってきて、動きを封じられてしまった。

(そうか、十分に回転ってことだったから、即抜きに来るわけか……って待って!)  
そんな内心の叫びもむなしく、リアは甚介のベルトを手早くゆるめ、パンツごとズボンを一気に膝下まで引きずり下ろしてしまった。

(あぁっ……!)

真上を向いてそびえ勃ったモノがあっけなくさらされてしまい、甚介はおそろおそ

る文梨のようすをうかがった。

「……………」

文梨は豪太に胸を揉まれながら、ぽかんと口を開けてまっすぐに甚介の勃起を見つめていた。

（見られた……娘にフル勃起チンポ見られた……）

呆然とする甚介などおかまいなしに、リアはペニスをおしぼりで拭き清めると、ちろちろと舌の先端で亀頭をいやらしく舐めはじめた。

異様な状況だというのに、数年ぶりに味わう女性の舌の感触がたまらなく気持ちよくて、されるがままになってしまう。

荒い息をつきながら横目で文梨のようすをうかがっていると、むこうも豪太の下半身をむきだしにして、勃起したものに顔を近づけていくところだった。

（文梨い……）

娘の愛らしい唇が、後輩の汚いモノにキスをする。そのとき文梨がちらつとこちらに目を向けて、うっかり視線がまともに交わった。

文梨はあわてたふうに豪太の股間に目を落とし、伸ばした舌を竿にからめていく。

さすがに見ていられず、甚介はがつくりとうなだれた。

「お兄さん、ずっとあっちの席ばかり見てるう」

れろれろと竿の裏側を舐めまわしながら、リアが不満げな声をもらす。

「アヤちゃんのほうが好みですかあ？ 指名もできますけどお」

「あ、いや、違う違う、あいつが後輩なもんだから」

「あー、男同士ってちんこ気にしますもんねえ。だいじょぶですよ、お兄さんのほうがデカいもおん」

あむっと亀頭を口に含まれ、甚介は腰をふるふる震わせた。

（ってか文梨、アヤって源氏名はそのまますぎるだろ……）

とにかく、いまはリアちゃんの舌技に身を任せて、いったん文梨のことは忘れよう。まずは出すものを出して身も心もすっきりしてからでないと、まともに頭もまわらない。

「リアのおまんこもいじってえ」

ねだられるまま、甚介はリアのスカートに手をくぐらせ、やたら面積の小さいパンツをずらした。ぬめりの源泉を探り当てて指を浅く沈めると、リアのおしゃぶりに熱

が入ってくる。

（この子も文梨と同年代くらいだよな……）

そんな女の子の膣内を、娘のすぐそばでいじっているのだ。

またこわごわ文梨に目を向けると、豪太の下腹部で頭をゆっくり上下させていて、あちらの表情はうかがえなかった。

かわりに、ソファーに片足を上げて大きく足を広げているので、あろうことか娘の秘部が丸見えになってしまっていた。パンツを足首にからませ、豪太の指を中に受け入れて、結構な勢いで出し入れされている。手が邪魔をして性器の詳細までは見て取れなかったが、それでもあまりに衝撃的な情景ではあった。

つられたわけではないが、リアの肉壁を摩擦する甚介の指もだんだんと速度を増していった。それに応じるようにリアもまた、甚介のペニスをより激しく口内に出し入れしながら、小さな手のひらで睾丸まで揉み込みはじめる。

腰の奥から放出のきざしがじわじわとこみ上げてくるのを感じて、甚介は無意識に文梨のほうへ顔を向けていた。

いつのまにか体勢を変えていたらしく、もう秘部は隠されていたが、今度は豪太の

ペニスが文梨の口に入入りするようすがモロに見えてしまっている。

むこうも視線を感じたものか、文梨がすうっと目を上げて、またも親子の視線がからみ合った。

悩ましく眉根を寄せて生のペニスをしゃぶるその姿に、射精感が一気に高まる。

「リアちゃんっ、もうそろそろ……」

さすがに心得たもので、リアはすかさず唇をすぼめてほどよい圧迫感を与えながらペニスの半ばからカリ首までを勢いよく刺激して、精液を搾り出しにかかっていた。

たまたま同じタイミングで豪太も絶頂に向かいはじめたのか、文梨の顔が上下する動きも激しくなってきた、やがてリアの動きと完全に重なり合った。

（ダメだっ、これはまずいっ……!）

文梨の動きにまるつきり合わせて、リアの口によってペニスに快感が送り込まれてくるのだ。

あたかも文梨にしゃぶられているような錯覚さえおぼえて、甚介は限界を迎えた。

「出るっ……!」

娘と目を合わせたまま、甚介は腰を跳ね上げた。

すさまじい快感をともなって尿道を熱いものが駆け抜け、文梨の——いや、リアの口内へと何度も打ち放たれていく。

長い射精だった。

かつてないほど深く、大きな快感が腰から四肢へと広がって、がくがくと全身を震わせてしまう。

「んむっ、むうっ、んっ、んくっ、んくっ、ぷあっ……」

けほけほと咳き込みながら、リアが股間から顔を上げた。

「お兄さん、量すごおい……飲みきれなかったの初めてだよお」

濡れた唇から受け皿にした手のひらへと白濁を滴らせながら、リアはうつすら涙を浮かべた目を困ったように細める。

「ご、ごめん……」

「ううん、こんないっぱい出してくれてうれしい。待ってね、ちゃんとぜんぶ飲むから」

「いや、そこまでしなくても——」

リアは唇についた精液を舐め取り、手に落ちたものを吸り上げて、いまだに垂直に屹立したまま身を震わせているペニスも舌で丁寧に清めていった。

半ば放心状態で身を任せつつ文梨のほうへ目を向ける。

（あれ？）

文梨は口元にあてたティッシュに精液を吐き出すと、ふにやりと垂れ下がった豪太のモノをおしぼりで拭きはじめた。

「……リアちゃん、ごっくんはみんなしてるの？」

「え？ あー、あんまりしないんじゃないかなあ。あたしはノッてるときは勢いで飲んでじゃうけど」

「……お掃除も？」

「うん。デカチンやっつけるとめっちゃ勝った気分になって、そこでかわいく思えて舐め尽くしちゃう」

「……エッロ」

「えへへえ」

さすがにこのあと女の子がチェンジしてもどうにもならないし、甚介はそのままリアを場内指名して時間が来るまで雑談を楽しんだ。

（べ、べつにリアちゃんを気に入ったからとかじゃないんだから……！）

などと自分に言い訳しつつも、いちやいちやちゅちゅしながら至福のひとつときを過ごした甚介なのであった。

文梨は豪太の席を離れたあと、ふたたび甚介の視界にあらわれることはなかった。店を出ると、文梨についての感想を聞かされるのがおそろしくて、上機嫌でスナックに行きたがる豪太をその場に残し、甚介はひとりタクシーで逃げ帰った。



甚介がシャワーを済ませてリビングで缶ビールを飲んでいると、文梨が廊下から音もなく入ってきて、肩を丸めるようにして奥の階段をのぼっていった。

そのようすを見て、やっぱりピンサロにいたのは文梨本人で、他人の空似などではなかったのだとあらためて思い知った甚介だった。

どこかで人違いであってほしいと願う気持ちがあったのだが、それは文梨にとって同じだったに違いない。

いつもなら文梨がビール一本だけ付き合ってくれる楽しい晩酌も、この日ばかりは

さみしいものとなったのだった。

翌朝に顔を合わせたときはいたってふだんどりの文梨で、いっしょに朝食をとりながら大学の話やら近々予定している旅行の話やらをして、それきり親子間の雰囲気は以前と変わらないものに戻ったのだが――。

やはり甚介としては、なぜ文梨がピンサロなどで働いているのか、それはいつからなのか、いったいどういう思いでやっているのか……と、そうしたことを聞きたくて聞きたくてたまらないというのが本音だった。

しかし、それとなくバイトの話や恋愛の話などを振りつつ、自然に本題へ持つていこうと試みても、いつもはぐらかされてしまう。それも無理に話題を変えたりとか、不機嫌をあらわに部屋に戻ってしまうとか、そういったことはなく、気づくと毎回、見事に話をそらされて、ひとしきり会話を楽しんでから自室に戻り、

（しまった、また聞きそびれた……!）

と歯噛みするという始末で、どうやら娘のほうが一枚も二枚も上手のようだった。

とはいえ、月末には親子ふたりで泊まりの旅行なのである。家とは違い、同じ部屋に布団を並べて寝るのである。

それまでにはいろいろはつきりさせて気持ちを整理しておかないと、なにかとんでもないあやまちを犯しそうで、それが甚介は怖かった。

だから、確実に文梨に逃げられない状況で腹を割って話すために、甚介は文梨ことアヤを指名してふたたびピンサロへと赴いたのだった――。

つづきは製品版で  
お楽しみください

## ■サークル「破滅乱淫オーガズム」作品一覧

＊2026年5月現在

### ◎既刊

- ① 委員長・静井莉子の露出自慰日記（優等生のカゲキないキぬき）
- ② ロリのふりして脱法露出！ 合法ロリでも外で脱いだら違法です!!
- ③ 露出体験告白1 イキすぎた公開絶頂
- ④ 着衣女性×露出男性勃起見せつけ体験集1
- ⑤ 時間停止能力を手に入れて露出オナニーを満喫してたら人生終了しちゃった話
- ⑥ 露出体験告白2 痴女たちの全裸淫戯（全裸になりたいわたしたち 露出体験告白2『改題』）
- ⑦ 身動きできない満員電車でロリたちに勃起を勝手に出されて射精させられた話
- ⑧ イメージビデオに出演したら挿入がないだけでぼろAVみたいな撮影だった話
- ⑨ 着衣女性×射精男性勃起見せつけ体験集2
- ⑩ イトコのねーちゃんに女湯で射精させられて家でエロいことしまくった夏の話
- ⑪ 露出痴女図鑑

⑫ 女の子が勃起チンポを見てくれるだけの本【JK編】

⑬ 露出絶頂体験 街で、オンライン会議で、混浴温泉で……

⑭ 露出体験告白3 公然のイキ恥さらし

⑮ ピンサロで遭遇した愛娘に生フェラされながら手マンしてイカせてしまった話

## ◎近刊

＊ 国民的清純派女優・浜瀬架帆

本気のセックスを映画として上映するため彼女は女優になった

＊ 怪淫譚 心霊絶頂体験集

＊ 男は誰もがチンポの虜 兜合わせ体験集

＊ 娘がアダルトライブチャットをしていたのでエロirikエストをしまくった話

（近刊の発売順は変更になる場合があります）

★各電子書籍ストア、ダウンロード販売サイトにて発売中！

（ストア、サイトによっては規約の関係上、一部扱いのない作品があります）